講義名	基礎簿記（１年生用）				
科目区分	学部専門基礎				
担当教員	木村　敏夫				
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 １時限		授業形態		
	2020年度 人間社会学部 人間健康学科／2020年度 人間社会学部 観光学科／2020年度 人間社会学部 人間社会学科／ 2020年度 経済学部 経済情報学科／2020年度 経済学部 経済学科／2020年度 商学部 マーケティング学科／ 2020年度 商学部 経営学科／2019年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツマネジメントコース／2019年度 人				
履修開始年次	１年生	単位数	2	備考	

主題と概要

"経済単位が行う経済活動（経済的資源の配分）を、認識、測定、記録、計算、分類、整理、要約、報告する方法が「会計」である。その会計の技術的な側面を担うのが「簿記」であると言える（帳簿記録の略称とも言われる）。簿記は会計の一側面として考える。
「基礎簿記」はその対象を生産経済としての「企業」（会社）の「簿記」（企業複式簿記）に限定し、企業簿記の基礎構造［記録計算等］を理解することにある。生産経済を営む企業の「経済（事業）活動」を記録、計算、分類、整理する技術である企業複式簿記の仕組みを基礎から始める。「企業」の設立、営業の開始、営業活動、営業外活動、経済活動の成果を一定期間に区切り（決算）、これを報告書（財務諸表）に要約する方法が講義内容となる。経済活動を財務諸表に要約し、開示することが会社法などに会計諸規定されていることから、経済活動の認識測定報告等は会計諸法規（例えば、会社法、企業会計原則、企業会計基準等）と関連することから、一定範囲で会計規則等にも言及する。
"

到達目標

会計機能のうち、「簿記」がもつ基本機能等を理解する。

提出課題

予定していない。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

予定していない。

評価の基準

評価方法は中間試験（50%）・定期試験（50%）で行う。

履修にあたっての注意・助言他

「簿記」は、一面技術である。技術は、時間をつかい習う、磨く必要がある。また、技術は、一旦、使わなくなると失われる可能性がある。したがった、受講者は、簿記の理解には会計現象の記録行為を各自で処理・学修する必要がある。

教科書

. 検定簿記講座3級商業簿記（2020年度版）	.	渡部・片山・北村編著	中央経済社	750

プリント資料及び参考文献

"必要に応じて、一部、プリントをポータル（PDF）または講義室で配布する。
【参考書】
ジャコブソール『帳簿の世界史』（文春文庫）"

授業計画

"第1講 簿記の定義・目的
第2講　複式簿記の構造（１）
第3講　複式簿記の構造（２）
第4講　簿記会計の言語・簿記における認識・測定
第5講　取引の記録と勘定の表示分類(1)
第6講　取引の記録と勘定の表示分類(2)
第7講　取引の記録と勘定の表示分類(3)
第8講　取引の記録と勘定の表示分類(4)
第9講　取引の記録と勘定の表示分類(5)
第10講　取引の記録と勘定の表示分類(6)
第11講　取引の記録と勘定の表示分類(7)
第12講　取引の記録と勘定の表示分類(8)
第13講　決算の処理（1）
第14講　決算の処理（2）
第15講　財務諸表の作成
"

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）
	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート
	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション
	カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

当然のことです。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考

大学の講義は、学問・学科目を「理解する」のが目的・目標する。体系的な理解の後に、理解した知識をもとに、「考える」。これが「知恵」となる。知恵は自分でしか取得できない。与えられるものではない。学後知不足。学生は、「真似る」ことから始める。真似るとは、「書き写す」ことではない。書き写すは、著作権違反という、りっぱな窃盗犯罪です。